

「平成24年度第1回 豊橋市地域公共交通活性化推進協議会」議事録

○日 時 平成24年6月8日（金） 10時00分～11時45分

○場 所 豊橋市役所 121会議室

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 0名

○事務局 5名

〔会議資料〕

・次第

・出席者名簿

【議案1】平成23年度事業経過報告並びに収入支出決算（案）について

【議案2】「ええじゃないか豊橋1日フリーきっぷ（仮称）」の発行（案）について

【議案2 参考資料】公共交通利用促進イベントの概要（案）

【議案3】「小学生50円バス運賃導入社会実験（仮称）」（案）に伴う運賃の変更について

【議案3 参考資料】「小学生50円バス運賃導入社会実験（仮称）」について（案）

【議案4】平成24年度 豊橋市生活交通ネットワーク計画の変更（案）について

【議案5】平成25年度 豊橋市生活交通ネットワーク計画（案）

【議案6】豊鉄バス大崎線の廃止について

【資料1】平成24年度の実施事業について

【資料2】「地域生活」バス・タクシー運行事業の利用状況等について

議 事

1. 開会

- ・本日の議事録署名者として2名の委員が指名された。
- ・今回の議事の内容あるいは進行過程のなかで、非公開事項に関することがあるかどうかの確認がされた。（非公開事項に該当する事項はなし）

2. 議事

(1) 平成23年度事業経過報告並びに収入支出決算（案）について

- ・事務局より、平成23年度事業経過報告並びに収入支出決算（案）について、議案1に基づき説明が行われた。
- ・委員より平成23年度収入支出決算を監査した結果、いずれも適正に処理されていることを認める旨の報告がなされた。

（質疑等なし）

- ・議長から、議案1について諮ったところ、全会一致で承認された。

(2) 「ええじゃないか豊橋1日フリーきっぷ（仮称）」の発行（案）について

- ・事務局より、「ええじゃないか豊橋1日フリーきっぷ（仮称）」の発行（案）について、議案2に基づき説明が行われた。

（質疑等なし）

- ・議長から、議案2について諮ったところ、全会一致で承認された。

(3) 「小学生50円バス運賃導入社会実験（仮称）」（案）に伴う運賃の変更について

- ・事務局より、「小学生50円バス運賃導入社会実験（仮称）」（案）について、議案3に基づき説明が行われた。

（質疑等）

（委員）

- ・「各事業者の営業施策として実施」の意味を詳しく教えてほしい。

（事務局）

- ・この事業は協議会の事業としてではなく、各事業者が運賃を下げるという営業施策として行うという位置づけで実施するということである。

(委員)

- ・運賃値下げ分はすべて事業者が負担するということか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

(委員)

・この取組は各市と事業者が協力して行うものであるが、事業者は一体で取り組んでいるが、各市の取組は縦割りであると感じている。利用者は、例えば豊橋市から新城市まで50円で利用できるわけで、豊橋市が調整し、東三河で連携して実施してほしい。

・この事業を実施するのであれば、子どもの運賃が下がれば本当に利用につながるのかの検証を行うべきである。バス利用に対する障害が運賃なのかということはあるので、東三河でこれだけの移動が可能だということをPRしていくべきである。

(事務局)

・この事業の構想が昨年度末に出たこともあり、予算措置は困難であったが、東三河全市の担当で打ち合わせを行い、内容を調整しながら進めている。PRについても豊橋市ではチラシやポスターを作成し小学生に配布することを考えており、それぞれの市で可能なことを実施する方向で進めている。

(委員)

- ・単に運賃が安くなるというだけでなく、動機付けが必要なのではないか。

(事務局)

・子どもだけで出かけることに不安があるとの意見もあるので、この機会を活用してバスを利用し家族でいろいろなところへ出かけるようPRしたいと考えている。

(委員)

- ・子どもが50円で乗った人数のカウントなど効果測定は行うのか。

(委員)

・利用人数のカウントについては、路線別での把握は厳しいが、1日あたりの利用者数や期間中の乗車人数の合計を把握していきたいと考えている。回数券の利用状況は把握が困難であるが現金での運賃収入の変化を把握していきたい。

(委員)

・運賃が安くなることで利用しやすくなると思うが、動機がないと乗ってくれないと思う。各市町の観光地をアピールしていくことなどが必要と思う。

(事務局)

- ・意見を参考にして各市町の担当者による会議で検討していきたい。

(委員)

・市民は市の枠を超えた連携協力を期待している。東三河全域で共有できるイベントが必要なのではないか。例えばマップを各市が協力して作成したり、小学校等に対して個別のイベントの実施を働きかけるなど、東三河が一体となって対応することが必要と考える。

(事務局)

・そのように考えていきたい。

(委員)

・子どもの運賃が50円だからといって子どものみで行動するのは難しいと思う。子ども会など、引率してくれる人への呼びかけが必要と思う。夏休みでなければ体験できない企画を考えてこの取組に結びつけることが必要と思う。家族では運賃が50円だからといって何度も出かけるのは難しいと思う。

(事務局)

・意見を参考にしながら担当で検討していきたい。

(委員)

・この取組は、実施してどのような結果であったかが大切であると思うので、当社としてもできる限りの統計を取り効果検証を行っていく。なお、安全・安心が担保できるための収支となることが必要であるので、期間限定のため、こうした社会実験にも協力できるという事業者の立場もご理解いただきたい。

(委員)

・取組の結果を期待している。

(委員)

・この取組を実施していない状態での小学生の動きを抑えてないため、効果がわかりづらい。ヒヤリング等をしていかないと効果がわからない。

(事務局)

・社会実験と銘打っているので検証は大切と考える。やり方は運転手に負担をかけすぎずに、できる限りのことをやりたい。今年度は初めての取組なので、それを踏まえた効果の把握をしたい。

(委員)

・効果の測定は定量的なものでもなくても、印象による測定でもよいと思う。

・議長から、議案3について諮ったところ、全会一致で承認された。

(4) 平成24年度 豊橋市生活交通ネットワーク計画の変更(案)について

・事務局より豊橋市生活交通ネットワーク計画の変更(案)について、議案4に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

・運輸局が補助金の上限を引き上げた背景を教えてください。

(委員)

・各自治体の要望に基づくものである。もともとは、補助金は50%を超えることができないとの考え方があった。20分の9は地域公共交通活性化総合事業からこの事業への移行にあたって、地バス補助が出ている幹線系統に付随する形でこの制度を構築してきた。あくまでフィーダー系統なので幹線系統に多くの人々が利用するよう、誘導する系統としてフィーダー系統としての幹線系統と同じ枠組みで作られたものである。幹線系統は20分の9という上限が残っているが、フィーダー系統は事業者単独の赤字路線がほとんど市町村の負担やコミバスのような委託で成り立っており、それをフィーダー系統として認定したもので、市町村の立場ではなぜ20分の9なのかということがあり、今回上限である50%になるように20分の9を廃止した。

(委員)

・特殊性を認定ということか。

(委員)

・もともとコミュニティバスのための補助ではなく、地バス補助を踏襲しているの、コミュニティバスに合うように制度を見直した。

(委員)

・補助の上限が撤廃されたということと運賃収入の見込みが昨年より増加する見込みであるということで変更するのか。運賃収入見込みで計算しているが、実際に収入が減少した場合、補助額が増えるのか。

(委員)

・20分の9が上限で補助対象経費は赤字分である。国では20分の9が赤字分としており、裏をかえせば20分の11が何らかの収入を得ているものとの立場である。豊橋市でも20分の11を収入として見込んだ状態で補助金を申請しているの、収入が数字上高くなっており、実績とかけ離れている。今回の変更で実績に近い数字で申請されたら、収入は下がるので赤字分が増え、補助金額が増えたということである。

・事前内定方式を採用しているの、天災などを除いたものは減額の対象となるが、それ以外が原因で運休したものは実際収入が減っても補助金は変更しない。

(事務局)

・北部地区では利用者が伸びてきているが、補助金をいただく以上、直近の利用者数の実績を基準とした収入を算定して申請している。

(委員)

- ・利用者数が増えれば協議会としては負担が減るのか。

(委員)

- ・ネットワーク計画の目標は前年よりも多い利用者数を目標としているので、このまま事業として成り立つ状況になれば補助制度を利用する必要がなくなることも考えられる。
- ・この制度は事業者にとってインセンティブがなくなることも考えられる。最終目標はこの補助金に頼らずに運行事業が成り立つルール作りが理想であるが、今のところは維持するために補助金を活用いただいている状況にある。

- ・議長から、議案4について諮ったところ、全会一致で承認された。

(5) 平成25年度 豊橋市生活交通ネットワーク計画(案)

- ・事務局より平成25年度 豊橋市生活交通ネットワーク計画(案)について、議案5に基づき説明が行われた。

(質疑等)

(委員)

- ・表1が3枚あるが詳しく説明していただきたい。

(事務局)

- ・表1は3枚で構成されており、3カ年計画を提出することになっている。1枚目は平成25年度、2枚目が平成26年度、3枚目が平成27年度であり、毎年計画はこの段階で計算し作成することとなっている。

(委員)

- ・事業の目標の④、運行期間「平成24年10月1日～平成25年9月30日とし、以降を継続」の意味と手続きについて教えていただきたい。

(事務局)

- ・平成24年10月1日～平成25年9月30日は事業期間である。北部地区の運行は3カ年だけでなくこれ以降も続いていくということである。

(委員)

- ・北部地区について実証運行の効果をどのように検証し、要綱との関連で、今後どのような考え方で事業を実施していくかを地域や一般市民にどのように説明するかを教えてほしい。

(事務局)

- ・「地域生活」バス・タクシー制度は空白地域の高齢者などの移動手段を確保するために実施する制度になっている。実証運行については地域が取り組むことになっているので、地域で少しでも運行内容を改善し続けていくのが事業である。本格運行は継続することが可能となるような形で地域の方が取り組む仕組みである。この事業の目的は公共交通空白地域の公共交通の維持であるので、制度上どのようなありかたがよいか随時検討しながら進めていきたい。

(委員)

・財政上の課題や収支率等の条件もあり、実証運行の結果、有効だと判断されたら本格運行という順番はあるので、いつまでが実証運行でいつからが本格運行なのかをこの計画でも説明していかなければならないと考える。実証運行と本格運行の区分と本格運行移行の考え方を説明してほしい。

(事務局)

・計画は申請上のもので、実証運行と本格運行は分けることにはなっていない。この会議の中では「地域生活」バス・タクシーの本格運行への移行についても協議することになっているので、そのときに実証運行、本格運行の考え方を説明させていただく。

(委員)

・実証運行中であるという共通認識はあるが、事業の見直しで、場合によっては運行をやめることも考えなければならない。

・議長から、議案5について諮ったところ、全会一致で承認された。

(6) 豊鉄バス大崎線の廃止について【議案6】

・事務局より、豊鉄バス大崎線の廃止について、議案6に基づき説明が行われた。

・豊鉄バス(株)より、廃止の内容について説明。

・事務局から本件に関する豊橋市の考え方を説明。

今回の廃止に伴いバス路線がなくなる区間は、豊橋鉄道渥美線との並行区間であることや、バスの利用者が少ない区間であることや、地域住民への意見聴取でも豊橋鉄道渥美線を利用可能な地域であり、廃止はやむを得ないとの意見であったので、豊橋市としても現時点では廃止について、一定の理解ができるものと考えている。

(質疑等)

(委員)

・廃止路線の利用者数はどれくらいいるのか。

(委員)

・平成23年6月の利用実績によれば、161人である。なおこの結果は現在の利用状況とは必ずしも一致しないが、このうち廃止に伴う路線の付け替えで完全に利用を阻害される人はそれほど多くないと考えている。

(委員)

・この路線の廃止について、地元が納得しているかどうかや、地元住民に対する説明を行ったのか、関係自治会の役員への説明にとどまっているのかわからない。今後も同種の事例の発生が想定される。それにより公共交通が少なくなり、ますます高齢者が軽自動車や自転車に頼ることの増加により、高齢者の交通事故の発生が懸念される。路線の廃止については今後も地元と十分に調整していただきたい。また本件については経過を協議会で詳しく説明していただきたい。

(事務局)

・最初は自治会の代表にどのように住民に伝えたらよいか相談した。その中では、渥美線等の代替手段があり、この路線の廃止によって移動手段がなくなるわけではないため、やむをえないとの回答であった。住民に対する説明等は必要であれば可能であるので、自治会と相談の上、対応していきたい。

・本件について継続して協議することとした。

3. 報告事項

(1) 平成24年度の実施事業について【資料1】

・事務局及び各事業者から平成24年度の実施事業について説明があった。

(質疑等なし)

(2) 「地域生活」バス・タクシー運行事業の利用状況等について【資料2】

(質疑等)

(委員)

・今までやまびこ号のバス停がみにくいとってきたが、最近バス停を見たところ、地域の方が全体を緑に塗り、ほかのバス停とは区別しやすいように工夫しているのを見かけて地域の方は頑張っていると感じた。

・事務局長から閉会の挨拶があり、会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員

..... (印)

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会委員

..... (印)